

事務 事業名	コード1	19600	畜犬登録事務費	事業 種別	☐ 国土強靱化地域計画	課	環境課							
	コード2				☐ 新市建設計画	所属班	環境美化班							
施策 体系	施策	21	良好な生活環境の形成		☐ 総合戦略	電話番号	62-5329	内線	476					
		39	住み良い住環境の確保		☐ 復興計画	予算	会計							
	施策の展開				☐ 定住自立圏構想	科目	一般会計							
					☐ 行政改革アクションプラン	根拠 法令								
					☐ 主要事業		4	1	4					
					☐ 簡易評価		狂犬病予防法							

1 現状把握(Do)

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 17 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述→	狂犬病の発生を予防し、そのまん延防止・撲滅を図るため、畜犬の登録及び狂犬病予防注射済票の交付を行う。また、年度初めに市内各地において狂犬病予防の集合注射を実施している。 【業務の流れ】 新規登録の畜犬に『鑑札』・『狂犬病予防注射済票』を交付する。既に登録済みの畜犬については毎年予防注射接種後に『狂犬病予防注射済票』を交付する。

(2)トータルコスト

① 費目の内訳(26年度の実績)		単位	千円	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
1.需用費	356	消耗品費、食料費、印刷製本費、修繕費	千円	323	272	356	392
2.役務費	256	通信運搬費	千円	247	248	256	338
3.委託料	142	電算機保守委託料、畜犬登録促進指導業務委託料	千円	117	133	142	181
4.使用料及び賃賃料	182	事務機器賃賃料	千円	47	47	182	182
	0		千円				
② 特定財源の内訳(26年度の実績)		単位	千円				
1.国庫支出金	0		千円	734	700	936	1,093
2.都道府県支出金	0		千円	0	0	0	0
3.地方債	0		千円	0	0	0	0
4.その他	936	犬の登録手数料	千円	734	700	936	900
前年度比増減理由: 畜犬登録システム更新のため事務機器賃賃料が増加した。			千円	0	0	0	193
③ 延べ業務時間の内訳(26年度の実績)		単位	時間				
窓口対応(100時間)・電話対応(100時間)・システムへの入力作業(200時間)・集合注射準備(400時間)・集合注射(180時間)・保健所への活動報告(20時間)			人	0.50	0.50	0.50	0.50
			時間	1,000	1,000	1,000	1,000
			千円	3,800	3,800	3,800	3,800
			千円	4,534	4,500	4,736	4,893

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
	26年度実績(26年度に行った主な活動) ・畜犬の登録、及び狂犬病予防注射済票の交付 ・市内各所での集合注射	ア 新規登録畜犬数	頭	317	309	249	300
	27年度計画(27年度に計画している主な活動) ・畜犬の登録、及び狂犬病予防注射済票の交付 ・市内各所での集合注射	イ 注射済票交付数	件	3,037	2,828	2,744	3,000
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
	市内で犬を飼育している市民	ア 登録原簿保有数	頭	4,317	4,270	3,697	4,000
	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
上位目的	飼い犬を登録管理することで狂犬病の発生を予防し、そのまん延を防止することにより、狂犬病にかかるリスクを減らすことができる。	ア 狂犬病予防注射接種率 (注射済票交付数/登録原簿保有数)	%	70.0	66.2	74.2	75.0
	④ さらに、どんな上位目的に結び付けられるのか	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
	市民が良好な住生活を送ることができる ※火葬場、畜犬含む	ア 狂犬病に感染した市民数	人	0	0	0	0

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
平成12年の狂犬病予防法の一部改正により、犬の登録事務や狂犬病予防注射に関する事務が市町村の自治事務となった。	年間の新規登録畜犬数、市内飼養犬数は減少傾向にある。	動物病院で狂犬病予防注射を接種した時に併せて、予防注射済票を交付出来ないかという要望や、集合注射の時間や会場を増やして欲しいという要望がある。

事務事業名	畜犬登録事務費	課名	環境課	班名	環境美化班
-------	---------	----	-----	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	狂犬病は致死率100%の病気であり、この発生・蔓延を未然に防止するため畜犬登録事務を実施することは、市民が健やかな生活を営む上で必要不可欠であるといえる。
	② 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	
	③ 行政関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	
有効性 評価	なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	狂犬病予防法により、犬の所有者は市町村長へ犬の登録申請をすることが義務付けられている。 また、同法により、市町村長は予防注射を受けた犬の所有者に注射済票を交付しなければならないとされている。	
	④ 成果の現状水準	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	平成25年度全国の予防接種率の平均は約73%である。本市においては概ね平均値であるので、あるべき水準は達成しているといえる。
	あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？		
⑤ 成果の向上余地	☒ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】		
有 効 性 評 価	次年度以降の成果向上が期待できるか？ 事務事業を取り巻く環境変化等を考慮する とどうか？成果の向上余地はどの程度ある か？	市広報紙への掲載回数を増やすことや、予防注射未接種の飼い主に対して、督促状の発送回数を増やすなど活動量を増やせば成果は向上すると思われる。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	他に類似事業がなく、他課とも連携できない。
	目的を達成するには、この事務事業の他 (民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似 事業との連携を図ることにより、成果の向 上が期待できるか？		
⑦ 事業費の削減余地 (表面トータルコストの事業費部分)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	経費は、畜犬の登録や、注射済票の交付の際に使用するものであり、狂犬病予防法で交付が定められているものである。また登録の推進や、予防接種率を向上させるための費用であるので、削減は難しい。	
事業費を削減できないか？(経費の精査、 過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協 力、アウトソーシングなど)			
⑧ 人件費の削減余地 (表面トータルコストの人件費部分)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】		既に集合注射時における犬の登録・注射済票交付等の業務に臨時職員を活用しており、削減は難しい。
やり方の工夫(業務プロセスの改善など) や臨時職員の活用・委託により、正規職員 の延べ業務時間を削減できないか？			
⑨ 受益機会・費用負担の 適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	狂犬病の発生を未然に防ぐことが、飼養者のみならず犬を飼っていない市民に対しても公衆衛生の向上の受益者となるので公平である。	
事業の内容が一部の受益者に偏っていて 不公平ではないか？受益者負担が公平・ 公正になっているか？			

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果		(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	あらためて狂犬病予防注射接種の重要性を飼養者に周知すること、引き続き畜犬登録の推進、予防接種率の向上を目指し安全・安心なまちづくりに努める。
② 有効性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
③ 効率性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	
④ 公平性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可)※2～3年後を目処にした方向性 ☐ 目的再設定 ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☐ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止 ☐ 行政関与の見直し ☐ 事業統廃合・連携(関連事業:) ☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化			(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上			○																				
	維持																							
	低下																							
(2)改革改善案について※いつまでに、なにを、どうするのか？ いつまでに H28年度からH29年度 なにを、どうするのか？ 督促状の発送回数を増やす事により、未接種者の減少を図る。市広報誌への掲載回数を増やす。																								
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 予算が増加するので、財政担当課と協議する。																								